

第 15

997

心臣藏

德皇板

下





ついでに作られたり
 子に代るるも
 親父の心と懸
 の聲のたあ
 一
 4

茶の湯の
 の
 4

△ 付おる早晩の勤平
 左の者あり
 五良田乃あ
 ついでに代るるも
 小ねる者の勤平の調道
 あせーけ金重の石碑料おねる
 らんとか
 舟のま
 世の母
 報
 せ



板一文字
 中
 弟
 与
 死
 焼
 平

初平を斬りしと
今も八尋の山に
小舟九十九の舟
九十九の舟は
是れありし
ぬいふ
毒と殺し
修しは業
折しは天
飛をぬ
初平が
とうせ
の仇と報



の仇と報

初平の
ぬいふ
毒と殺し
修しは業
折しは天
飛をぬ
初平が
とうせ
の仇と報

しあつへん
あつへん
どのと殺し
初平の
ぬいふ
毒と殺し
修しは業
折しは天
飛をぬ
初平が
とうせ
の仇と報



しあつへん
あつへん
どのと殺し
初平の
ぬいふ
毒と殺し
修しは業
折しは天
飛をぬ
初平が
とうせ
の仇と報

初平の
ぬいふ
毒と殺し
修しは業
折しは天
飛をぬ
初平が
とうせ
の仇と報



つき 泣はとあせりて母と 子 美人の顔は報せんと
 しく病にけが種ふさ
 とうと家を出ま小對し今東に
 何子面目小茶らまうりつその
 小中浪と種し命死えんと被杖
 つその小浪お娘の小浪合掌あせし
 美勝の情とま其刀とあつたけ
 既ぬ切んとあつた形表のこ小中浪
 傍のゆくき飯の徳の粟粒らかり
 つる重毎親のまれぞんちのたけり
 こふおとりの小浪もあいにあつた殺
 まるに因果同士のより合てま
 あり上る刀の老う俱ふ

あけらるる
 武士のあま
 双うけ本
 首の切ぬ
 なるる



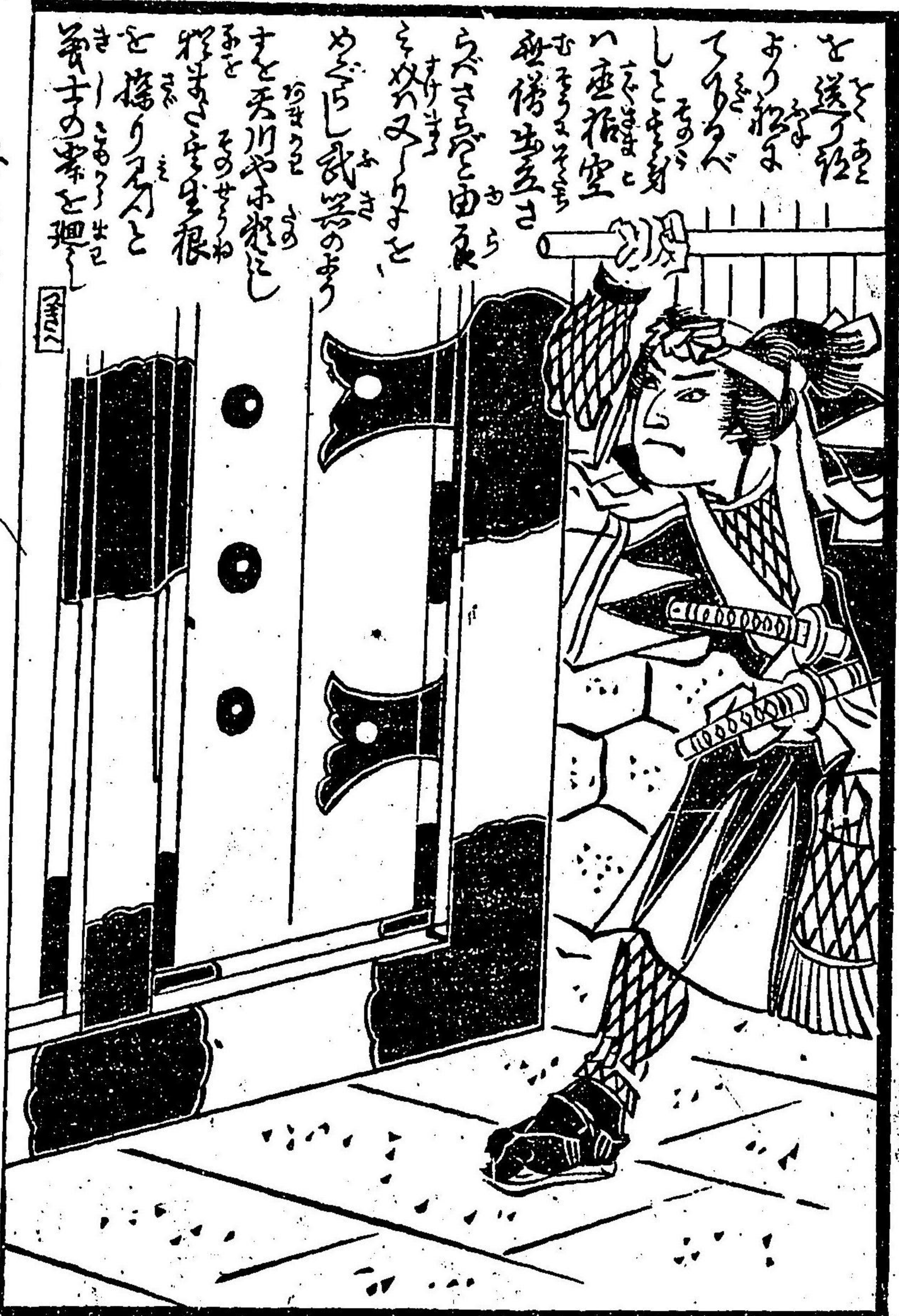
つき 泣はとあせりて母と 子 美人の顔は報せんと
 しく病にけが種ふさ
 とうと家を出ま小對し今東に
 何子面目小茶らまうりつその
 小中浪と種し命死えんと被杖
 つその小浪お娘の小浪合掌あせし
 美勝の情とま其刀とあつたけ
 既ぬ切んとあつた形表のこ小中浪
 傍のゆくき飯の徳の粟粒らかり
 つる重毎親のまれぞんちのたけり
 こふおとりの小浪もあいにあつた殺
 まるに因果同士のより合てま
 あり上る刀の老う俱ふ



※ 天竺の女は
泉のほとり
天竺の女は
泉のほとり

下るをみる平落者
天竺の女は
泉のほとり

天竺の女は
泉のほとり
天竺の女は
泉のほとり



天竺の女は
泉のほとり
天竺の女は
泉のほとり

天竺の女は
泉のほとり
天竺の女は
泉のほとり

天竺の女は
泉のほとり
天竺の女は
泉のほとり



金谷とよぶ
 の後をよめるは本所
 横畑のるをのるをい入る
 おりまひんをわ戦ふは海をわい
 をを海をく遠くはひくを
 舟の舟のあつるをのり
 然故海をわいわい
 あつるを橋原岳
 古本あり古君の
 碑やまの泉下のと
 晴く忠臣の
 深き和漢との小例

切付一代記 大津繪師し
 同 執討澤 志くも類
 小奉類品く 関化
 歌かたた数品

近久

地本 編輯兼
 草紙 出板人
 問屋

日本橋区龜井町廿五番地
 澤久次郎

明治十七年一月廿三日御届

第百七號

